

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 くるみ)

事業所番号	0670400803		
法人名	有限会社 敬愛会		
事業所名	グループホーム こもれびの家		
所在地	米沢市花沢3612番地の1		
自己評価作成日	平成 26年 2月 20日	開設年月日	平成 15年 7月 30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

わたしたちの事業所は「笑顔が見たい 役に立ちたい」のスローガンのもと、お一人おひとりの思いを汲み取ることができるように、利用者様がどのように考えられるかを最初に考えて支援させていただいております。そして、御家族様の思いと御本人様のこれまでの生活歴を尊重し、居室担当制にて信頼関係を築きながら、楽しい時や嬉しい時は共に笑い、悲しい時は共に泣き、よき理解者となれるように努めております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.jp/06/index.php>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3-31		
訪問調査日	平成 26年 3月 19日	評価結果決定日	平成 26年 4月 14日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者に寄り添い思いや希望に沿った支援に努め、家族等や地域の方からの温かいサポート、職員からの支えで、「本人本位のケアの充実」を図っています。行動や言動の意味を考え、集団生活での環境づくり、また自己決定の尊重など認知症ケアを理解し、生活全体を支える取り組みを行っています。そのなかで、生活の一部である食事の準備は、買い物から利用者と一緒にしており、開設当初から毎食手作りの食事の提供をしています。これからも日常の生活を大切に、コミュニケーションを重ね、一人ひとりの暮らしのリズムを重視し、最期まで継続的な支援をしていきたいと努めている事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自 己	外 部	項 目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「笑顔が見たい、役に立ちたい」をスローガンとし、支援行っている。また、ホーム独自の目標もあり、毎日、唱和行い意識して仕事をしている。	利用者1対1の時間をもち、触れ合うことを大切にしている。毎月、具体的な個人目標を出し、自己評価を行い振り返ることで見つけた課題をサービスに活かしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近くのお店に買い物に出掛けたり、散歩に出掛けたりした時に、近隣の方と挨拶を交わしたりしている。	事業所菜園の野菜等の作り方や調理法を地域の方より教わり、利用者とも顔馴染みの関係を築き、職員は近隣道路の除雪や堰掃除をするなど共助の心が育まれている。開設当時より、高齢化も進んできている現状もあり、若い世代の方たちとの交流も検討している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域推進会議の場を活用し、事例や事案などを聞いていただいている。	/		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2カ月に1度開催しており、相談員の方からいただいた意見や評価について話し合いの時間をもち、そこでいただいた意見をサービスに活かしている。	道路の拡張や防災組織の体制、日中の独居の方の把握など、会議を通して事業所や地域と情報のやり取りがあり、一体となって取り組んでいる。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議へ参加いただいた際や、訪問・電話等で相談をさせていただいている。	困難事例や不明点の確認など、地域包括支援センターの協力を仰ぎ、解決している。市担当者からは、介護保険改正等やその他、メールで新しい情報が送られてくる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	毎月行う会議にて身体拘束についての勉強会を行っており、全職員が理解し、危険行為に対応するための対応策を拘束排除の理念に基づき、話し合っている。	一人ひとり認知症の症状が違うことを理解し、利用者の行動や思いの意味を探り、その方に合った対応や工夫に努めている。家族等の協力と職員の見守りで安心、安全に過ごしてもらえよう利用者に向き合った支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月行う会議にて勉強会を行っており、虐待ゼロに向けて積極的に取り組んでいる。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎月行う会議にて勉強会を行っており、利用されている方もいらっしゃる。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、重要事項説明書も併せて、必要書類の読み合わせを行い説明している。また、ご家族様の思いにしっかりと寄り添うことができるように、話し合いの場を持っている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置しており、ご家族様の意見等を把握するようにしている。把握した内容については、随時話し合いの場を設け、運営に反映できるように取り組んでいる。	家族等とは日頃から面会時や電話などで話す機会を設け、相談などに耳を傾けている。利用者の思いや意向は、職員との対話やコミュニケーションの中から把握に努めサービスに活かしている。		
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行われるスタッフ会議や連絡ノートを活用し、意見を交換して運営に反映するように取り組んでいる。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月個々人に目標と自己評価をしてもらい、意識を持って仕事ができるようにしている。また、不定期に、自己評価と併せて主任からの評価をってもらうなどし、目標を持って努力のしがいのある環境作りに努めている。			
13	(7)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々人に合った研修等に参加し、報告書・報告会にて周知し、ケアの質の向上に努めている。	職員は、互いに一人ひとりの目標に向けた努力を共有し、注意しあえる関係を築き、思いやりをもって関わりに努めている。研修での学びや現場での教えをサービスに活かし、質の向上に取り組みを続けている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	市の同業者ブロック協議会の参加や、「おいたまの郷」との連携を図っている。	近所のグループホームや同業者との交流で、抱えている問題や解決に向けた情報や意見交換を行っている。今後は、希望があれば職員交流にも対応していきたいと考えている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様・ご家族様の要望や不安に思っていることをしっかり受け止めることができるように、じっくり話し合い、また、入居後も細かく意向をお聞きし、支援させていただいている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用に至った経緯も含め、ご家族様からのみのアセスメントをとる機会を設け、不安や思いを汲み取るようにしている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居の申し込みを頂き、面接等を経た段階で、ご本人様が必要としている支援内容と、私達のグループホームの支援内容が合致しているか等話し合い、必要であれば、適切であろう機関に紹介させていただいている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様の思いに傾聴し、尊厳を大切にすることを常に念頭に置き、接しております。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の際には、ご家族様とゆっくり話ができるよう配慮したり、面会の少ないご家族様には電話等で状況を報告させていただいている。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの場所を定期的に訪れたり、お友達やご兄弟の面会があった際、記念写真を撮らせていただいたりして関係が途切れないよう努めている。また、手紙などで近況を報告されている方もいらっしゃる。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お一人おひとりの個性を十分に把握し、馴染みの関係が築けるように、配席などに配慮している。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要とされた際には、できる限りの支援をさせていただいております。また、転居先に行かせていただき、情報交換をさせていただいております。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	居室の担当者を配置し、信頼関係を築き、良き理解者となれるように努めています。また、ご本人様の思いや希望を把握し、ケアプランに活かしている。	顔色や表情、しぐさなど、一人ひとりの変化から目を離さず、その方の歩調に合わせたコミュニケーションを重視している。日常の暮らしの中で、利用者の出来る力を引き出している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前に十分なアセスメントをとり、今の状況も含め、細かく把握していけるよう努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	居室担当者が細かく把握し、それに基づいて記録を残している。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にモニタリングを行い、居室担当者が本人の思いに傾聴し、ケアプランに反映できるように支援している。それをもとにケアカンファレンスをし、ご家族の思いや他職員の意見等を反映させている。	より深くその人を理解するために、オリジナルのアセスメント様式により情報収集し居室担当者が中心となって、3ヶ月に1度見直しをかけている。暮らしの中の言動や状態の変化、気づきをプランに反映させ、利用者が暮らしやすいと感じられるような計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活を細かく記録しております。記録はケアプランに沿ったものになるように意識しており、ケアプランの実施状況に反映できるようになっております。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 (小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる				
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアを積極的に受け入れたりしている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人の希望するかかりつけ医になっているが、必要に応じて同行して状況を説明し、状態にあった医療を受けられるように支援している。	本人や家族の希望により従来からのかかりつけ医や専門医に受診している。協力医による定期的な往診もあり、夜間・緊急時など24時間連絡が取れる体制となっている。また週1回の看護師訪問に、健康相談など職員と情報交換し、細やかな気づきを医療受診に活かしている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護は週に1度あり、その際に相談させていただいたり、時には、電話等で相談させていただいている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際は、医療機関との情報を交換し、病院側には入院される前の状況を、こちらでは入院先での状況の把握ができるように努めている。また、入院先に向き看護師さんより情報をいただいたり、相談員さんとの情報交換をし、退院に向けての働きかけをおこなっている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人様、ご家族様の意向を踏まえた上で、この事業所において、できる限りの支援をさせていただき、その際には、かかりつけ医との連携を図りながら、職員全員で共有し取り組んでいる。	重度化や常時医療行為が必要となった場合は、可能な対応を説明し家族等と話し合い協力医療機関との連携を図っている。職員は医療処置を必要としないターミナルケアについては、これまでの経験を活かし対応や心構えを共有している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署開催の救急救命講習会に定期的に参加したり、毎月の会議にても定期的に勉強会を行い、その状況にあった対応がとれるよう努めている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災管理者の主導のもと、年2回の避難訓練を実施している。また、地域の防災組織にも加入しているため、地域との協力体制も整っている。	前回の反省と課題を確認し、町内会長の参加や隣接している小規模多機能の応援体制を組みながら、夜間想定や消火活動など年2回の訓練を行っている。有事に発電機の説明を受けたり、ろうそくやラジオ等は備えているが食料品については課題となっている。	近年、多発している地震等の災害に備え、必要な食料品等の蓄えに期待したい。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに配慮した声掛けを徹底しており、また、毎日の唱和の中でも意識付けされている。	プライドやプライバシーに配慮し、一人ひとりと目線を合わせる、話は急かさないうで最後までゆっくり聴くことを心掛けている。言葉づかいやコミュニケーションの一方通行にならないよう利用者の心理を理解しながら、思いやりのあるケアに努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の思いや希望が言いやすい環境作りを努めており、自己決定ができるよう、急がずゆっくり関わるようにしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様それぞれの生活スタイルを尊重できるよう取り組んでいる。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしいオシャレができるように支援を行っている。今まで通われていた美容院に、ご家族様の協力を得ながら、通い続けていらっしゃる方もおります。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養面に配慮しながら、食べたい物や節のメニューを教えていただき、調理や盛り付け、片づけまで一緒に行っている。	献立はユニット職員が交代で作成し、毎日の買い物には職員間で連携を取りながら各ユニットの利用者と一緒に出掛けている。盛り付けの彩りに工夫し食席に気を配り、時節の話題にさりげない声掛けや見守りをしながらゆっくり食事ができるよう支援している。食後には一人ひとりがノートにメニューを書き込むなど、毎日の記帳が生活のリズムに繋がっている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	担当にあたったユニットが毎日の献立を作成している。食事量や水分・塩分、その他の禁食等を考慮しながらバランスの摂れた食事提供を心掛けている。また、摂取量は毎日記録しており、情報の共有を行い、確実に摂取できるよう努めている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	その方の状況を把握し、できない部分の介助を行い、毎食後徹底して口腔ケアを行っている。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄状況を排泄チェック表に記録しており、パターンを把握し、プライバシーに配慮しながら声を掛け、誘導を行っている。	排泄パターンを記録で把握し、その人に合った時間帯でトイレ誘導や声掛けを行っている。おむつ使用の方にもプライバシーに配慮しながら、居室での清潔保持に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の体操や水分提供、また、乳製品を摂られている方もおります。必要に応じて、下剤を服用されている方もおり、個々人に合った予防に努めている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日を決めず、その日の体調や気分に応じて入浴できるように支援している。	午後からの入浴時間となっており、その日の状態や希望により調整をしている。入浴好きから拒むようになった利用者には理由の確認を怠らないよう、生活歴や声掛け等の反応に注視しながら支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起きる時間や寝る時間は決めず、一人ひとりの習慣や体調に応じて対応している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の作用・副作用は全職員が分かって扱えるよう徹底している。また、服薬後も様子を伺い、状況に応じて医師に相談・報告を行っている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴を把握し、ホームに入居されてからも可能な限り継続できるように支援している。塗り絵や計算ドリルをされたり、テレビのスポーツ観戦や短歌を詠んだり、それぞれに趣味や嗜好を楽しんでいけるよう支援している。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望があれば可能な限り支援させていただいている。	職員と毎日スーパーへ買い物や居室担当者と外食をしたり、ダリア園等へのドライブなどには家族も一緒に参加することもあり、日頃から個別に合わせた支援をしている。中庭では日常的に散歩やお茶会など行い気分転換を図っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の希望を尊重して支援しており、金銭管理が可能な方はご自分で管理されている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に添えるよう支援している。ご自身でということが困難な方に対しても担当がお気持ちを配慮し、お手伝いしている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースには畳敷きのスペースがあり、冬にはコタツをとって家庭的な雰囲気を作っている。手作りの作品を飾ったり、季節を感じられる物を置いたり、居心地良く過ごせるように努めている。	ホールはリビング吹き抜けの窓採光でとても明るく、廊下には要所要所にソファが置かれ広くゆったりとした空間になっている。玄関を始め、廊下等の壁面には手作りの作品や年間行事でのスナップ写真等に趣向を凝らし、アイデアを盛り込んだ楽しみな飾り付けとなっている。床暖房やシーリングファンを取り付け、快適な室内環境に配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	中間スペースとして和室やソファを配置し、自由にくつろげるように配慮している。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者様が馴染みにしている物、使い慣れた物を持ちこんでいただくようにしている。	居室にはベッドやクローゼット、洗面台が備え付けられている。馴染みのものを持ち込み、思い出の写真等を飾るなど、自宅環境と変わらない雰囲気や好みに設えている。落ち着いて穏やかに暮らせるように工夫された居室は、利用者それぞれの個性が窺われる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	場所が分かりやすいように目印をつけたり、ご利用者様一人ひとりに合った声掛けをし支援することで、未然に混乱や失敗を防ぎ、自立して生活できるようにしている。			